

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2771000557		
法人名	医療法人 博悠会		
事業所名	グループホームさくらんぼ中島(1F)		
所在地	大阪府大阪市西淀川区中島1-14-21		
自己評価作成日	平成23年5月10日	評価結果市町村受理日	平成23年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771000557&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771000557&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年6月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>名取病院・なとりクリニックと24時間医療連携をとっており、入居者様の健康管理を行なっている。ご希望があれば、最期の看取りまでさせていただいている。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>医療法人を母体とする当該ホームは、設立から8年が経過し、医療との連携が密である事から重度化やターミナル期に向けた取り組みや支援体制が整っています。利用者、家族の多くは最期まで「ここで暮らしたい」という強い思いがあり、支援体制も整い職員はその思いにそえるように支援している事で利用者、家族の安心につながっています。「患者様 利用者様は、私たちの家族です」を理念とし、職員も家族のような気持ちで温かく尊敬の念を持って接し、一人ひとりの思いにそえるよう支援しています。また、法人内での研修体制も整い、職員は研修を受ける機会が確保され、サービスの質の向上にもつながっています。地域においても地元住民の協力も得ながら防災訓練を定期的実施し、またホームの夏祭りの際にも地域の方に手伝いをしてもらうなど地域との連携も出来ているホームです。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼で「利用者様は家族です」との理念を唱和し、実践に向けて共有している。	「患者様 利用者様は、私たちの家族です」という理念の基、利用者と一緒に過ごす事によって、家族ではありませんが、家族のように接しながら職員は自分の家族ならどうするなど日々話し合いながら理念を共有し、ケアサービスに反映させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の行事に参加したり、夏祭りにはお手伝いをさせていただき、交流を図っている。	自治会に加入しています。地域の消防訓練や小学校での運動会の見学に利用者で行ったり、また、クリスマス会の際には保育園児が歌を歌いに来てくれたり、ホームの夏祭りの際や消防訓練の際には近所の方が来て下さるなど、地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、地域に出掛け、介護教室を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上のため、いろいろな意見を伺うようにしている。	2ヶ月に1回、看護部長、事務長、地域包括支援センター職員、利用者、家族、町会長、地域ネットワーク委員、防災リーダー等が参加し、活動報告や現状報告し意見をもらったり、地域の情報を得る場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区在宅福祉センターに於いて、3ヶ月に1度、西淀川区グループホーム連絡会に参加している。	市の担当者との積極的な関わりは出来ていない状況ですが、今後は管理者自身が窓口に行き関係作りに努めたいと考えられています。	地域密着型サービスの意義を踏まえ市や区の担当職員と連携を図り、情報をもろう等積極的に事業所から働きかけることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に行動できるように制限せず、支援している。	身体拘束をしないケアを実践しており、法人内で行っている研修に参加し、事業所で資料を基に伝達研修をしています。玄関やユニット入口は施錠しておらず、エレベーターがテンキーロックされていますが状況によりなるべく解除しています。利用者の様子や行動から察知し、一緒に外に付き添うよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の行動を制限する行為は行わず、見守り、声かけを徹底している。		

グループホームさくらんぼ中島(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や助言を必要とされている方には提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を説明し、十分に理解していただいた上で書名押印をいただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情はすぐに対応し、職員間でもミーティングを行ない、意見を管理者へ報告している。	面会に来られた時や行事の際、また年に2回の家族会にて家族の意見を聞くようになっています。得られた意見については職員で話し合い家族に報告し運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体ミーティング、フロアミーティングを行ない、意見を管理者へ報告している。	管理者は日頃から職員が意見を言いやすいように配慮し、雰囲気づくりに努めています。また、会議等でも職員が意見を発言する場を設け、話し合いながら職員からの提案を運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の介護に対する考え方や姿勢を把握し、働きやすい環境作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会、外部研修などの情報を知らせ、選んで参加しているようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度の同区内のグループホームの連絡会、法人内の勉強会への参加、同法人内のグループホームとの会議等での意見交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて本人、家族から、生活上の不安や希望などを伺い、入居後のケアに活かすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の今までの様子や状況を伺い、御家族が困っていること、グループホームに求めていることを聞き、今後の取り組みについて話し合い、安心していただけるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を伺い、必要なサービスを検討し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊富な利用者様より、学ぶことが多く、教えていただくことが多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と話す時間をとり、利用者様本人が希望することを共に考えながら、支えていくことに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が面会に来ていただきやすい、雰囲気を作っている	経営していた会社の従業員だった方や友人の訪問があったり、また墓参りや冠婚葬祭の集まりには家族の協力を得ながら出かけるなど、馴染みの方や場所との関係継続を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関わるように努め、よりよい関係が構築できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が入院された場合も面会に伺い、御家族様に出来ないことがあれば、援助を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の立場に立って考え、マイペースに過ごしていただけるように努めている。	入居時に本人の生活歴、趣味、暮らし方の希望や意向を直接本人や家族に聞き把握に努めています。また、入居後も日々の会話の中で聞いたり、困難な場合は家族に聞きながら職員間で話し合い一人ひとりの思いや希望を検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に詳しく生活歴を伺い、ケアに反映するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の状況を把握し、異常時の早期発見が出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの情報や意向などを伺い、変更や見直しをチームで意見交換し、反映するよう努めている。	利用者や家族から、どのような生活がしたいか、情報を集め記録に残しよりよく暮らすための支援に繋がるようなケアプランの作成に努めています。日々の記録から1週間毎にミニモニタリングをして、さらに1ヶ月に1回職員の意見を聞きながらモニタリングが行われており、定期的、随時に見直され現状に合ったプランになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を日勤帯・夜勤帯で個別に記入し、一週間毎に評価し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスだけでなく、地域へ出掛けたり、本人や家族の要望に応じている。		

グループホームさくらんぼ中島(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方により、陶芸教室やカラオケ教室の開催などのご協力をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往信お医師をかかりつけ医とし、関係を構築させ支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞いています。週1回医師の往診以外に理事長である医師の往診もあります。看護師の訪問も週に1回あり24時間対応可能です。また看護師の資格を持った職員が配置されています。歯科衛生士による週1回の訪問もあり医療体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、往信看護師が訪問し、相談しやすい環境にあり健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人・家族の意向を伺い、病院関係者とも情報交換しながら、早期の退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の意向を伺い、状態に合わせた段階で、その都度、家族・主治医と話し合い、方針を共有している。	重度化や看取りについてのホームの方針を説明し利用者や家族の思いにそうように支援している。ターミナル時には主治医から家族に説明している。重度化やターミナル期における勉強会を開き、職員の不安解消にも繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会で定期的に緊急時の対応の訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ない、町会長を通じ、町内会にも協力をお願いしている。	年2回消防署立会いのもと避難訓練を行なっています。地域にも呼びかけ、町会長をはじめ3～4名の参加があり協力体制が築かれています。また、現在、備蓄の備え付けについて準備をしているところです。	今後消防署の指導のもと、夜間想定避難訓練を実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のない言葉使いを心がけ、プライバシーを損ねないように努めている。	家族のような気持ちで温かく尊敬の念を持って接つすることを心がけています。否定しない事を基本としており、不適切な言葉づかいや対応を見かけた場合はその都度注意しています。また、利用者の名前の呼び方については家族の同意を得てその方が穏やかに過ごせるように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に説明し、納得のいくようにペースをあわせて支援するように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握し、尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、訪問理容を利用し、衣類等は買物に出掛け、御自分で購入するように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理実習に参加していただき、盛り付け、後片付けなど手伝っていただいている。	配食センターから料理が届きますが、職員は利用者と一緒に食事をしたり、毎週日曜日には利用者の希望を聞いて一緒に調理する機会を設けて楽しみになるよう支援しています。また後片付けを一緒に行うなど出来る事に携わってもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし、少ない方は補助食などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ、誘導、介助等、一人一人に対応している。		

グループホームさくらんぼ中島(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行なっている。出来る限り自立できるよう援助し、オムツの使用量を減らすよう工夫している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができることを基本としています。立位が不安定な利用者には、職員二人で介助を行いトイレ誘導し自立支援に向けています。オムツを使用している利用者についても、なるべくトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルトなど個々に良いものを提供し、体操の参加等も促し、運動の働きかけにも努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に声掛けし、入浴されるかどうか決めていただき、拒否の場合は別の機会に再度伺う。	毎日入浴できるよう準備をし、希望者は毎日入浴されています。夜間の希望者は現在はありませんが対応は可能です。拒否される方には、声かけを工夫したり家族に協力してもらうこともあり入浴できるよう支援しています。体調不良時等、足浴の対応もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態に合わせ、お昼寝を居室やリビングでされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を確認するようにし、職員で情報を共有出来るように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	相撲や時代劇、歌番組などの時間になると声かけし、CD音楽をかけ、歌を皆で一緒に歌ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前で日光浴をしたり、公園やお寺などに散歩に出掛けている。	気候の良い時にはなるべく散歩に出掛けたり、玄関先に出て気分転換を図っています。週1回近所の美容院へセットに行ったり、職員と一緒に郵便局やコンビニに行くこともあります。また季節のお花見や梅を見に行ったりもしています。	



グループホームさくらんぼ中島(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望に添えるように管理し、買い物と一緒に出掛ける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、職員が個別に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るくし、リビングにはソファを配置し、職員手作りの壁飾りや利用者の写真を飾って、季節感を出し、居心地良い雰囲気にも努めている。	玄関入り口にはあじさいの花が咲き、季節感が味わえます。広く明るいリビングはテーブル以外にソファを配置し、ゆったりと過ごせる場所が確保されています。また観葉植物が置かれ、テーブルは冬には座位のまま入れるコタツとして使用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置を工夫し、本人が好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年、馴染んだ物を置いていただき、生活歴に合わせたお部屋作りをしていただいている。	入居時に利用者や家族に、馴染みの物を持ち込むことで、落ち着いて生活できることを説明しています。洗面台が設置されている居室には絨毯を敷いたり、馴染みのソファやタンス、鏡台を置いたり、大切にされている仏壇や家族の写真を飾っています。また趣味の三味線や本、花等を持ち込まれ本人らしく暮らせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に手すりを配置し、利用者様の出来る事を大切に、わかりやすいよう表示したり、工夫を行なっている。		